

## 平成 28 年度(2016 年) 社員心得

1. 報告・連絡・相談を必ず実行し、確認作業を怠らない。
1. 訊<sup>きく</sup>く力を身に着けることで、コミュニケーション能力を高め、相手の状況を把握することに努める。
1. 差別化された価値観は優先順位と理解し、世代、客層によって異なるニーズをつかみ取る努力をする。
1. 常に疑問を提示し、ベースとなる知識を増やすことで、創造性豊かな人間性を構築する。
1. 自らの目で確かめ、物事を多角的に見ることで、多数派に流されることなく、物事の本質を見抜けるようにしていこう。

### スローガン

どうさつ  
洞察

—物事の本質を追求し、見極め、見抜く力を養い、実践に結び付ける—

株式会社 大邦建設

株式会社 ホームイ

株式会社 ディー・ハウス

## 〈解説〉

混沌とした時代。閉塞感。そのような中、何が本物で、何が偽物なのか。リアリティと仮想現実の境界（ボーダー）がわからないのがここ最近の傾向なのではないでしょうか。

仕事においても、どこに向かえばいいのか、何をしていけばいいのか、言いようのない不透明感に襲われていて、向上心・チャレンジ精神というもののさえも削がれてしまっているような感があります。

そこで、今年のスローガン・社員心得は、物事の本質を見抜くためにはどうしたらいいのかを主要テーマとして掲げました。

社員皆さんの1年間の業務遂行において助けとなる言葉となれば幸いです。

①訊く力とは、先般の業者会議において、ソウルプロダクツの中野貴史先生から教えて頂いた、相手の本質を見抜くコミュニケーション方法です。是非、実践していただきたいと思い、心得に掲げました。

②価値観の考え方は、「ランチェスター経営」と呼ばれる手法の中の一つです。

実は世代・客層によって、購買ニーズは全く違っています。頭では理解していてもいざ実践となると、例えば画一的なチラシ広告に頼ったり、地域戦略を立てなかったりと間違った方法を取りがちなのが、今までのこの住宅・建築業界の手法でした。

価値観には世代・客層ごとの優先順位がある（何がはしくて、何がいらぬのか等）ということを理解してもらいたいと思います。

③物事の本質を見抜けるようになる方法には、以下の項目が挙げられます。

- ベースとなる知識を増やす
  - 常に疑いの心を持つ
  - 多面的に見る
  - 自分の目で確かめる
  - 多数派に流されない
  - 歴史から学ぶ
- これらを心得の中にまとめました。

歴史から学ぶということは盛り込みませんでしたが、歴史を鑑み、先人からの教訓を生かすことが、非常に重要だということをつけ加えておきます。